

在日ブラジル人のこころの健康

および教育支援事業

特定非営利活動法人

在日ブラジル人を支援する会（サビジャ）

- ◆助成テーマ：安心して暮らせるための地域共生社会の実現に資する事業
- ◆助成区分：全国広域（東京都世田谷区）
- ◆助成金額：7,667千円



○ 事業概要

在日ブラジル人及び子弟は、言葉の壁があり、日常生活に必要な情報を入手できず社会から孤立する傾向にある。そこで、在日ブラジル人及び子弟が地域社会で安心して生活し、地域社会と良好な関係を築くため、ブラジル人心理士によるポルトガル語の心理相談を実施。ポルトガル語による教育サポートも新たに始め、当団体心理士・学校・保護者と3者で連携してサポートを実施した。また、在日ブラジル人の集住地域がある自治体で心理相談、医療相談、法律相談等のワークショップを開催した。

○ 事業内容・実績(アウトプット)

① 在日ブラジル人向け心理相談事業

ブラジル人心理士によるポルトガル語の心理相談を面談やオンラインにて実施した。また、ポルトガル語による児童への教育サポートも実施した。

- ・オンライン相談 902件（月100時間）
- ・対面相談 21件（愛知県新城市 月1回）
4件（茨城県常総市 隔月1回）
17件（出張相談 6ヶ所） 計24回
- ・児童への教育サポート 7ケース

② 在日ブラジル人向けワークショップ事業

ポルトガル語による医療支援を行っているNPO、弁護士協会などの機関へ協力を要請し、医療相談、日本語教育相談、法律相談を在日ブラジル人の集住地域がある島根県及び福井県で実施した。

- ・島根県出雲市：2019年9月15日（日）参加者26名
- ・福井県越前市：2019年11月24日（日）参加者21名

○ 事業の成果(アウトカム・インパクト)

● 在日ブラジル人家族への効果

相談時間帯の枠を広げたこと、継続的な支援を行うことで、相談に対する満足度が向上した。また、学校で支援が必要な児童へのサポートに当団体が加わることで、学校と保護者の連携が強化され、学校と保護者間の意思疎通がスムーズになった。

● 制度化に向けて

ブラジル人集住地域の市役所内で心理相談を開始した。制度化（市の予算化）に向けて市の担当部と当団体間で調整を進めている。

○ 取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

● ニーズに沿った支援

心理相談事業の予約はSNSで24時間受け付け、相談時間は午前・午後・夜間の3体制にした。また、オンライン相談が難しい子どもには学校内で対面での面談を行った他、希望に沿えるよう男性心理士と女性心理士を配置するなど、支援者のニーズに沿ったサービスが提供できるよう体制を整えた。

● 関係機関との連携強化

事業実施にあたり、医師や教育相談員などの専門家の派遣、データ提供など多くのNPO諸団体から協力を得られた。事業実施後には、在日ブラジル人を支援するNPO諸団体のネットワークの構築にいたった。

○ 評価者より

専門性の高い活動内容であり、行政からも事業委託の検討が打診されるなど、地域においても信頼の厚い活動が展開されている点を評価します。令和2年度は引き続き、ポルトガル語の教育サポート窓口のマップ作成、ブラジル人心理士向けワークショップの開催など、活動分野を超えた広がりづくりを積極的に展開しており、今後も継続して取り組まれることが期待されます。